

汚れた池をキレイにしよう！

占春園かいぼり体験



学習会 (定員 80 名※小学校3年生以上)

- ①占春園の歴史
- ②「かいぼり」の意義や効果について
- ③水辺の生物について

2019年1月6日(日) 13時30分～15時30分 (受付13時)

場所：筑波大学東京キャンパス講義室 (119号室)
(東京都文京区大塚3丁目29-1)

在来種救出イベント (定員 30 名 ※小学校3年生以上)

2019年1月13日(日) 9時30分～12時 (受付9時)

場所：占春園 (東京都文京区大塚3丁目29)

泥上げイベント (定員 30 名 ※小学校3年生以上)

2019年2月10日(日) 9時30分～12時 (受付9時)

場所：占春園 (東京都文京区大塚3丁目29)

【占春園概略説明】

筑波大学東京キャンパス内にある池のある庭園です。池の中央の島には嘉納治五郎先生(柔道の父)の銅像があります。現在は筑波大学附属小学校の自然観察の場です。江戸時代には江戸の三名園のひとつと云われました。

Q. かいぼりってなに？

汚れた池をキレイにするために池の水を抜き「在来種を救出」し、池底を乾かした後、底にたまった「泥を上げ」ももとの池の姿に戻す作業です。



Q. どうして冬におこなうの？

魚や水生昆虫へのダメージが少ないためです。暑い時期は水温が上がりやすく、保護した魚がバケツ等で酸素不足になり弱ってしまうからです。春の前にきれいな池にすることで新しい生物も顔を出します。

【占春園の歴史】

あの徳川光圀公の弟：松平頼元が1659年(万治2年)に上屋敷を構えた庭園の名残です。園内も1746年(延享3年)に建てられた碑文には「我が公の庭は占春と名づく」とあります。当時は江戸の三名園(青山の池田邸、溜池の黒田邸)のひとつであったと云われていました。その後、1903年(明治36年)に東京高等師範学校(現 筑波大学)がここに移ったことにより校地の一部となり現在に至る。今回、筑波大学同窓 若溪会で「占春園の再生プロジェクト」が立ち上がり、このイベントが実現しました。2019年の大河ドラマ〜いだてん〜の主役「金栗四三」さんは、東京高等師範学校(現 筑波大学)の出身で当時の学長が嘉納治五郎先生です。

日程

参加料

無 料

注意事項

- ・在来種救出イベント、泥上げイベントに参加する方は、必ず学習会にも参加してください。
- ・在来種救出イベント、泥上げイベントに参加する方は、当日かならず各自で長靴をもって来て下さい。また、汚れてもいい服装できてください。※池の水は事前に15cm前後まで抜いてあります。
- ・1度申込み後のキャンセル等は出来ません。
- ・各自、飲み物を持参ください。
- ・貴重品等の管理は各自をお願いします。
- ・チラシの写真はイメージです。

